まちづくり委員会広報

千僧供町

シンボルマークと標語

・かよい合う　心でつなぐ　まちづくり

・いにしえの　千僧の村　皆のまち

No. 003

編集発行
〒523-0016
近江八幡市千僧供町
会議所内
まちづくり委員会
TEL(0748)37-1234
広報部担当
小川　博久

「住みよいまち」より「住みたいまち」に

自治会長　小川　延司

平成十七年の輝かしい新春を、ご家族おそろいでお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

本年もご町内住民の皆さん方がご健康で快適な暮らしが出来ますことを念じております。

昨年は全国の各地で台風や水害そして大地震等大きな災害に見舞われ、また、子供の虐待や誘拐・殺人など痛ましい事件が多発し、全てが異常さを感じます。幸い本県では大きな被害や事件も少なく、今更ながら恵まれた土地柄を実感しています。

この住みよい恵まれた中にある我が町を、生活環境や風習などの面から見直し、更に住みよくしようと始められた活動も二年目となり、これからが活動の本番だと思います。

六〇才以上の終戦前後に生まれた者の時代は既に終わり、戦後に生まれた方々の時代に入っており、一家の中においても意見や物の考えにも違いを感じています。

しかし、古い事が全て悪いこととは思わないし、私達の先祖や諸先輩から受け継いで来た行事や伝統ある祭事も、町内住民の生活やコミュニケーションを図る上で大切なものも数多くあり、これらを取捨・選択して如何に改善・改革して行くかは、これからの皆さんが中心となって考えてほしいと思います。「住みよいまち」より、皆が「住みたいまち」へと、今回のアンケート調査の結果を踏まえて、更に議論を重ねて、よりよい結論と成果を期待しております。

学区文化祭協賛バザー盛況に開催される！

前年度、町内の皆さまの協力により開催されたバザーが、今回はさらに多くの方々に利用いただけるように、去る十月三十一日に開催された馬淵学区文化祭に「千僧供町まちづくり委員会バザー」として出店されました。今回も、町内の各家庭より提供された多くの日用品や家庭用品、さらに綺麗に袋詰めされた新米二四〇キログラム分などが店頭にびっしりと並べられました。開店と同時に多くの人達がおしかけ、それぞれ目当ての品が買い求められ、両手一杯に品物を抱えた人達で一時はレジが大混雑するなど、売り子役の委員たちは大忙し。開店から一時間も経たない内にすべての商品が完売する大盛況でした。その結果、総額一〇三、九三五円を売り上げました。その内から、精米費と包装資材費と、先の新潟中越地震被災者に対する義援金を差し引いた、八万余円は、今後の活動に有効に活用すると話されていました。

マークの意味	まちのシンボル供養塚古墳をベースに、中央に椿の花を配したこのマークは、『完璧な魅力と誇り、つつしみ深くて気取らない優美さ』の意味をもち、魅力ある町にとの思いを表現しています。

まちづくり委員会 各グループ活動状況

今年度の活動から

時代の移りとともに、変化・進歩が求められる生活環境。老若男女すべての人が住みやすい町とは？。まず、『若い人が住みやすい生活改善』をテーマにKJ法の手法を用いて、問題点や課題を出し合い段階を経て本質の追求へと進んだところで、十一月に町内の中学生以上を対象にアンケートを取らせていただきました。

結果、実に九割におよぶ方々から解答いただきました。大変貴重な意見も多くいただき現在集計とまとめの作業を進めているところです。時間を要すると思いますが結果をお知らせして自治会に協力しながら、課題の解決に取り組んで行きたいと思っています。

一方、この地域では稀な歴史と文化遺産の宝庫であり発展する町を広く知っていただこうと、千僧供町のマップ作成に取り組んでいます。市教委や市観光物産協会などの指導や協力を受けながら、千僧供の歴史などほとんど知らなかった若いメンバーが連日の作業でようやく完成間近にこぎつけました。遅くとも二月初めには皆さまのご家庭にお配りできると思います。

また、このマップ完成には関係諸機関から大変な感心をいただいております。そして、駅の観光案内所など多くに置かれることになっています。

完成間近の千僧供町ガイドマップの表紙です

「KJ法研究グループ」

藤居　剛
小川広司、小川公子

KJ法の係では、今回の住民アンケートの項目を、KJ法を使って、議論し、決めました。アンケートの内容について、わかりにくいと、指摘を受けました。わかりにくかったことをお詫び致します。

アンケートの回収率は九〇%でした。裏面にもたくさんの記入して頂きました。本当に、ご協力ありがとうございます。

集計内容についてですが、若い人が住みよい町づくりのためには、祭りの改善が重要な問題のようです。

「住宅案内板作成グループ」

久郷　勇
小川　敏信、小菅　好美
坂田美智代、富永美奈子

資料収集、設置場所、材質、記号、内容、数量、大きさ、金額、制作実日数等、原案作成中です。将来できるだけ訂正をしなくてもよいものを考えていきたいと考えています。

「マップ作成グループ」

小川敏博
馬場和美、中島英美
小川薫、河村記代美

二〇〇五年一月発行をめざして、考えを出し合い、大きさ、色合い、内容、業者との詰め、制作部数、置く場所など何度も会合をもって取り組んでいます。一月二十二日（土）に千僧供古墳の里めぐりが計画されていますので、ぜひともそれに間にあえばと願っています。どうぞご期待下さい。

マップ考案・作成風景

「広報グループ」

小川博久
小川由一、馬場茂喜

できるだけ多くの情報を伝えること、他所への広報活動を考え取り組んでいきます。

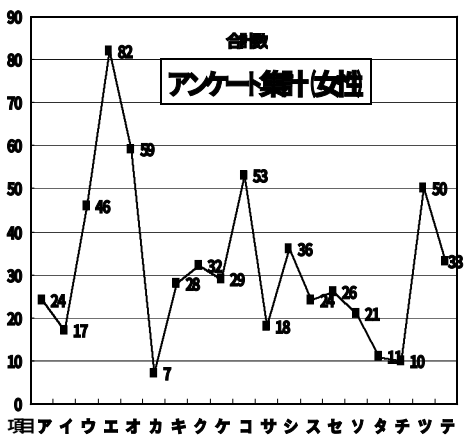
上が八幡瓦版2005.vol.29、下がJRふれあいハイキングだよりに掲載されたものです。来られた方に訪ねられたら気持ちよく答えてあげてね

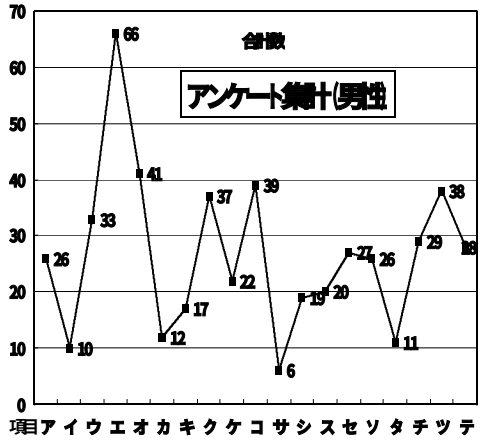
アンケート 回収表　2004/11/28

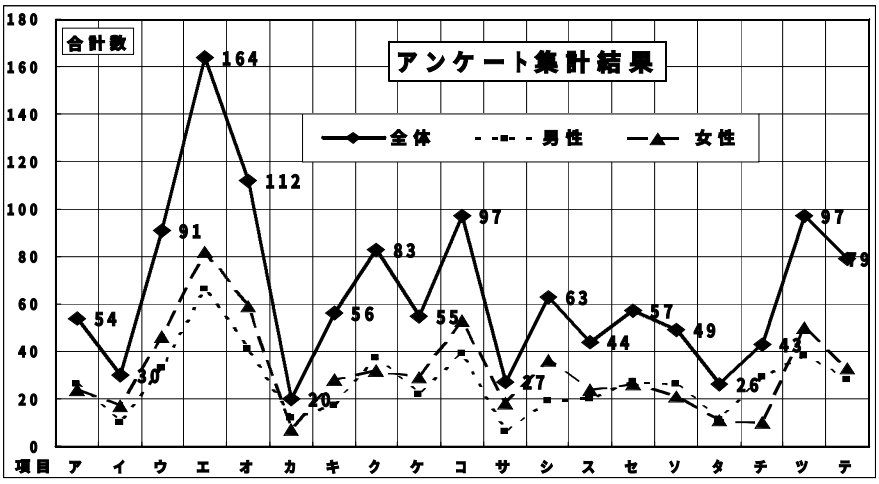
年　代	回収数
10代女性	14
10代男性	14
20代女性	22
20代男性	22
30代女性	23
30代男性	14
40代女性	27
40代男性	18
50代女性	24
50代男性	30
60代女性	29
60代男性	23
70代女性	22
70代男性	13
合計	295

無記入	合計
10代	0
20代	2
30代	3
40代	3
50代	2
60代	3
70代	2
女性	1
男性	0
全無記名	24
合計	40

全回収数＝295＋40＝335人
依頼数＝370人
回収率＝ 90.5 %







「アンケート文」（この中から四項目を選んで下さい。）

ア）（千僧供のしきたりや風習について）意見を言ってもどうせ聞いてもらえないのではなかろうか。

イ）（神社事の出夫について）出夫の風習が決められているのは、やはりまだ男女差別（区別）が、まだあるからではなかろうか。

ウ）（祭り行事や体育行事について）昔は生活の一部、今は強制的に人を集めてしか実行できない別の大変な行事になっているのではなかろうか。

エ）（祭り行事や体育行事について）時代が変化しているのに行事はそのまま続けられているため、参加にも無理、困難が生じ、ひいては参加意欲も無くしてきているのではなかろうか。

オ）（祭り行事など）　若い人とお年寄りとの考え方が、祭り行事など、ずいぶん違いがあるのではなかろうか。

カ）（祭りに参加する若者が少なくなったのは）祭りのギャラリー（見物人等）が誰もいないから、楽しくないのではなかろうか。

キ）（生活改善・町内会計など）　定期的なチェック（確認）、監査体制がなされていないのではなかろうか。

ク）自治会費、神社費、寺費、篤志など、金額がはっきりしないのは、年間の使用額が計算されておらず、文書として記録が残っていないからではなかろうか。

ケ）（生活改善のルールについて）ルール（規則）が守れないのは、役員だけで決めていて、いろんな立場の人が参加できていないからではなかろうか。

コ）（生活改善のルールが守れないのは）　生活改善の目的が理解されていないのではなかろうか。

サ）（うわさ話やかげぐちがでるのは）　他人の家の様子が気になり、自分や自分の家族について、安心感を持ちたいからではなかろうか。

シ）（うわさ話やかげ口がでるのは）特にこれといった理由があるわけではないが、他人の事が気になり、そのことを話すことが、生活の一部になっているのではなかろうか。

ス）（町内の子供に注意ができなくなったのは）　昔にくらべ近所の付合いが少なくなり、まったく他人となってしまっているからではなかろうか。

セ）（お互いに挨拶ができなくなってきたのは）　生活する上での、基本的なしつけが、されなくなってきているのではなかろうか。

ソ）（行事などの改革について）正面きって、意見を言うとあとで役を当てられるなどの責任や負担をおわされるのではと、思っているのではなかろうか。

タ）ただ大会（体育行事）に出場することのみを目的に、前年のメンバーに依頼しているのは、役員が楽をしたいからではなかろうか。

チ）（町内行事の参加と改革について）　役員だけの行事となり、役員として行事をやめることはできないと思っているからではなかろうか。

ツ）（町内行事の参加と改革について）　行事を変えられないのは、義務、責任感のあるものが参加しているだけで、自分の代で変化させて、何か悪くいわれるのが嫌だからではなかろうか。

テ）（町内の安全について）　国道八号線のバイパスとして、町内道路に車が入ってくるのが多くなってきたからではなかろうか。

以　上

みなさんからの声

生活改善申し合わせ事項の、法事の賄いのとらえ方が街道や個人によって様々なのが、少々気がかりです。せっかくの決め事なのにまた前の形に戻りそうで心配です。法事は大事なことなので私達自身も含め、これから引き継ぐ若い世代もやりやすい形に整えてほしいと思います。法事だけではなく、せっかくの申し合わせ事項、みんな足並みを揃えて守ってもらえたらと思います。

（Kさん）

町民を引きつける
イベントの開催を

まちづくりは、住民の方の参加なくしてできるものではありません。町民全員が参加できる様なイベントなど何か計画して頂けないでしょうか。ますますのご活躍を期待しております。

（Tさん）

〃温故知新で和を〃

「生活改善の申し合わせ」で住みやすくなり喜んでいますが、老若男女お互い遠慮され、本音でよりよい方向に……。索漠としたあわただしい世の中だからこそ残して欲しい所は変えないでと思います。拡大ふれあいサロンでは、自分のできる事を協力しあって、心を共有する事でつながりの輪（和）ができたと思いました。

（Mさん）

「まちづくり」と一言でいうことは簡単。でも活動に移すとなれば、誰もが考えこんでしまうもの。まちづくり委員会に全てまかせるのではなく、年輩の方、若い方が一緒に、かよいあう心を持っていただき、住みよい町にして欲しいと思います。一人一人の思いをまちづくり委員会に伝え、少しでも改善されればと思います。歴史ある千僧供を守っていく為にも、皆さんの意見で、ゆとりあるまちにしていただければと思います。

（Sさん）

まちづくりバザーから

九月まちづくりライブから

千僧供探訪

③椿神社神門（県指定有形文化財）

椿神社神門
（県指定有形文化財・室町時代後期）
四脚門　切妻造　桟瓦葺　東向

神社の草創は明らかでないが、社伝によれば長和五年（一〇一六）に日吉十禅師社を勧請して、古くから山門の千僧供料地として、この地の地主神として祀られたものと言う。

神門の建立を明らかにする資料は無いが、板蟇股、大斗（斗繰）、控柱大面取りの比率などの様式手法が室町後期頃を示しており、その頃に建てられたものと考えられる。

その後の沿革についても資料を欠き、元治元年（一八六四）に軒廻りの裏甲まで取替える屋根修理を行った記録があるにすぎない。

神門の桁行は（本柱間）三、六四メートル、梁間（控柱間）が二、九九メートルで、規模としては四脚門の平均的なものであるが、軒高が約四メートルもあって柱間寸法に対してかなり背の高い建物である。

構造は、四脚門の型とおり本柱（円柱）上に冠木を架け、大きな板蟇股をおく。

控柱（大面取り角柱）上は頭貫を組み（木鼻は無い）、大斗、舟肘木（桁行方向のみ）に軒桁をのせる。古くは妻側の軒桁位置には直材の妻梁を架けるが、この門では完全なかたちの虹梁となって、この辺の構造、手法にも室町末期の特徴を見ることができる。

一方、大斗の斗繰、板蟇股の意匠や、強い反り曲線をもつ軒垂木等には室町時代の様式を多分にもち合わせた建物である。

現在、扉を欠失しているが、唐居敷（石造）、冠木下端には扉を納めた軸穴があることから当初は扉がつけられていたことが判る。

扉を除いては当初部材の保存がきわめて良好で軸部材はもちろんのこと軒垂木、茅負、破風にいたるまで当初のものが残っている。

現在の屋根は桟瓦で葺かれ、四脚門の特徴ともいえる軽快さを、やや失っているが、桟瓦は後世修理で葺かれたもので軒廻りにはこれらの軒付が残っており建立当初はおそらく檜皮葺（または柿葺き）であったものと考えられる。

「参考文献」
滋賀文化財だより
№五九参照

次に椿神社境内の指定文を掲載します。

県指定　有形文化財　椿神社神門一棟（四脚門・切妻造・桟瓦葺）室町時代末期

昭和三八（一九六三）年一一月一二日　市の有形文化財に指定

昭和五七（一九八二）年三月三一日　県の有形文化財に指定

椿神社はもと十禅師権現と称し、日吉山王の神を祀る。

社伝では、長和五（一〇一六）年の初まりと伝える。

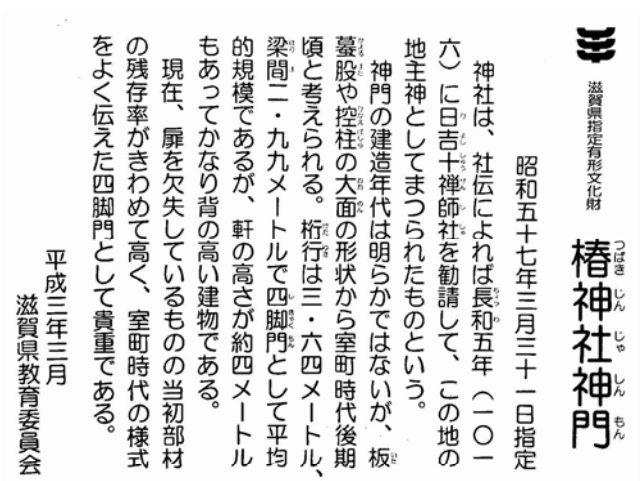
また、『源平盛衰記の起請文によると、寿永二（一一八三）年七月、平氏の一族により、故平清盛のめいふくを祈るため、千僧供養料所として比叡山延暦寺に寄附したと云う。

これが当地「千僧供」の地名の由来といわれるが、日吉大社は、比叡山に延暦寺が開かれて以後、天台宗の守護神となっており、両者は深い関係を持つ。

このことより当地が延暦寺領となった際に、当社が祀られるようになったものと考えられる。

当社の祭礼は、馬淵・千僧供岩倉の田用水分配に関する寄合祭で古式を伝えており、民俗資料として貴重なものである。

昭和六一年三月
近江八幡市教育委員会
椿神社



県指定有形文化財 椿神社神門（室町時代後期・四脚門　切妻造　桟瓦葺　東向）